

—— 経済生活について ——

松阪女短大 ○馬場啓子 梅村郁子 上島雅子 渡辺澄子 川本栄子

目的 松阪市における高齢者の生活実態および意識はどのようなものであり、それらを構成する諸要因がどのような構造をしているのかを明らかにすることを目的として、すでに日常生活、家族関係について報告してきた。本報では高齢者の経済生活について、職業の有無、収入、収入源、収入の使途、生活費の負担者、貯蓄目的、経済満足度の7項目をとりあげ、これらの項目間の関連および他の生活領域との相互関連から経済生活構造を明らかにしようとした。

調査項目と調査方法 調査項目の設定、調査方法については前報と同様で、属性および7つの生活領域（日常生活、経済生活、家族関係、地域社会生活、健康状態、生活意識、生活環境）について74項目を設定し、集計後、 χ^2 検定、クramerの関連係数を用いて分析した。

結果 ①経済生活領域の各項目と共通して高い関連度を示したのは「生活費の負担者」であった。従って生活費の負担者が誰であるかを中心に高齢者の生活構造をみた。生活費の負担者が依存型の者46%と半数近く、次いで自助型33%、中間型20%であった。自助型は有職者で男性に多く、配偶者があり、社会への関心や活動を持つ者の割合が高い。依存型は高齢になるほど増加し、女性で無職の者が多く、社会への関心は低い傾向がみられた。②経済満足度では、職業の有無、収入と関連せず、生活満足度など意識項目と強く関連していた。また、生活費の負担者が依存型の者の方が満足の傾向を示していた。しかし、全体的には84%の者が経済的に満足しており、不満は少なかった。 リ日本政策学会 中野文部部第2回 府県発表会